

1. 単元名「浜口梧陵の生き方から学ぶ」

2. 単元の目標

- ・ 浜口梧陵について調べ、苦心や功績、地震発生時に求められる行動を理解することができる。
(知識・技能)
- ・ 浜口梧陵が残した堤防や稲むらの火資料館などを見学、調査したり、地図や各種の資料を効果的に活用したりして調べ、浜口梧陵の思いや銅像を建てた住民の思いを考え、適切に表現することができる。
(思考・判断・表現)
- ・ 浜口梧陵の想いを主体的に考え、地震を自分事としてとらえ、リーダーシップを発揮し率先避難者としての態度を身につけることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

・ 教材観

本単元は学習指導要領の目標 (2) および (3)、内容の (5) ウ「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を受けて設定している。内容 (4) とも関連しているが、ここでは先人の働きと人々の願いを中心に授業を進めるため、内容 (4) については既習事項として捉えている。ここでは、和歌山県広川町の「稲むらの火」の主人公として有名な浜口梧陵を先人の例として取り上げる。

浜口梧陵は、1854年（安政元年）11月4日、5日の2回にわたって襲った大地震の際、海水の干き方、井戸水の急退などにより、大津波が来ることを予期した。浜口梧陵は村民を避難させるため、自分の田に積んであった収穫された稲むらに火を投じて急を知らせ、村民の命を救った。また、人命救助だけでなく、津波の壊滅的な被害を受けた村民のために、救援家屋の建設や農漁具の調達などを行い、将来の津波被害を防止するために全長600m、高さ5mの防波堤の建設を進め、雇用を生み出すなどして村から住民が離れていくのを防いだ。完成後、1946年に昭和南海地震が起こり、4mの津波が襲ったが、堤防に守られて地域は無事だった。

浜口梧陵がどのように村の人を守ったかを考え、子どもたち自身の震災時の行動を見つめ、考えさせたい。

・ 児童観

・ 指導観

単元の学習前にアンケートを実施し、浜口梧陵について知っているか、今地震が起こったらどのようなことができるかなどを問う。このアンケートは、単元学習後にも行い、学習を通じた学びの変容を見ていくようにする。まず、和歌山県広川町役場にある浜口梧陵の銅像を子どもたちに見せ、なぜ広川町役場に銅像が立っているか、なぜ走っているのかなどに着目させ疑問をもたせる。そこで、「なぜ広川

町に浜口梧陵の銅像があるのだろうか？」ということを学習問題として設定する。各自浜口梧陵について調べ学習を行うが、まず広川町で浜口梧陵を研究している人や浜口梧陵の業績として残っている広村堤防、稲むらの火資料館に実際に聞き取り、見学に行く。そこで、浜口梧陵にかかわる人から聞き取り調査を行うことで具体的に人の思いに迫れると考える。そして、浜口梧陵が安政東海・南海地震（1854）で稲むらに火をつけ村民を救ったこと、村を津波から守るため堤防を作ったこと、その堤防により昭和南海地震（1946）で住民が守られたということ等を学ばせる。それから、「なぜ広川町に浜口梧陵の銅像があるのだろうか？」の学習問題を再提示し、地震発生時、地震後の浜口梧陵の行動に着目させ、銅像を立てた住民の浜口梧陵に対する思いについても考えさせる。しかし、ここで終わるのではなく、和歌山県が出している南海トラフの巨大地震等による津波浸水被害想定や、東日本大震災の際に津波浸水想定より高い津波が押し寄せて多くの死者が出たなどの事実を子どもたちに伝える。そうすると今のまま堤防に頼っていたり、地震や津波をより軽く見ていたりするといけないのではと感じると考えられる。

「私は海沿いに住んでいないから地震がきても大丈夫だ」と考えているような子どもに、地震や津波はいつどこで起こるかわからないという自然災害の恐怖を自分事として捉えられるようにさせたい。そして、「今、地震が発生したら私たちにできることは何だろう」という新たな学習問題を再設定して、浜口梧陵の行動から、地震発生時の行動について具体的に考えさせる。

・ ESD の観点

【持続可能な社会づくりの構成概念】

- V 連携性：浜口梧陵は、安政東海・南海地震（1854）では村民の命を守るため稲むらに火をつけ急を知らせたり、地震発生後に村民と協力しながら村に堤防を作ったりした。このような浜口梧陵の行動から自分の住んでいる地域の人とのつながりを意識できる。また、地震が発生したときに自分ならどのような行動ができるかを考えることで周りの人とのつながりを尊重する力が身につく。
- VI：責任性：浜口梧陵は、安政東海・南海地震（1854）のときに、大津波が来ることを予期し、村民を避難させるため、稲むらに火をつけ村民を避難させた。このことから地震発生時に、自分の命を守るとともに、率先避難者として周りの人の避難行動を誘発するなどの責任性を養う。

4. 評価規準

ア：知識・技能	イ：思考・判断・表現	ウ：主体的に取り組む態度
① 浜口梧陵の苦心や功績について理解することができる。 ② 地震発生時に求められる行動を理解することができる。	① 浜口梧陵について、調べたことをもとに考え、適切に表現することができる。 ② 地震が発生したとき、今自分たちにできることを具体的に考え、表現することができる。	① 意欲的に調べ、浜口梧陵の思いを主体的に考えることができる。 ② 学習したことをもとに、地震を自分事としてとらえ、リーダーシップを発揮し率先避難者としての態度を身につけることができる。

5. 単元展開の概要（9時間）

時	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	<p>○学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌山県広川町役場にある浜口梧陵の銅像を見る。 広川町役場に立っている銅像に疑問をもたせる。 	<p>◎次の点に着目して、考えさせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> この人は誰なんだろう？ どこに向けて走っているんだろう？ 銅像があるけど何をした人なのか？ 	<p>ウ：① 〔ノート〕</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>なぜ広川町に浜口梧陵の銅像があるのだろう？</p> </div>			
2 3	<p>○浜口梧陵について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 町に残る施設や資料館を見学し、浜口梧陵や稲むらの火という話、堤防の様子について具体的に調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地に行き、児童の疑問が解決できるよう聞き取りが行える機会を設ける。 	<p>ア：① 〔ワークシート〕</p>
4 5 6	<p>○浜口梧陵や稲むらの火について調べ、わかったことをまとめ、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書室の本やインターネットなどから調べる。 自分の調べたことを聞き取りの結果や資料からまとめる。 わかりやすく伝わるように発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主にインターネットで調べ、図書資料なども事前に準備しておく。 新聞にまとめ、発表の練習もさせる。 発表する側と聞く側を分ける。 発表後には、感想や質問をさせる。 	<p>ア：① イ：① 〔発表資料〕</p>
7	<p>○学習問題について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto;"> <p>なぜ広川町に浜口梧陵の銅像があるのだろう？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題を通して浜口梧陵の思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生時、地震後の浜口梧陵の行動に着目させる。 住民の浜口梧陵に対する思いについても考えさせる。 	<p>ウ：① 〔発言〕 〔ノート〕</p>

<p>8 9</p>	<p>○浜口梧陵の行動から、今地震が発生したら自分ができることについて具体的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県では今後大きな地震が来るということを知る。 ・地震は、いつどこで起こるかわからないということで危機感をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県のすさみ町では、今後の地震の際に最速で地震5分後に18mの津波が来ると予想されていることを伝える。 ・内陸部に住んでいる児童にも地震はいつどこで起こるかわからないということを伝える。 	<p>ア：② イ：② ウ：② 〔発言〕 〔ノート〕</p>
<p>今、地震が発生したら私たちにできることは何だろう？</p>			
		<p>◎地震発生時の行動として次の点に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・率先避難者になる。 ・一生懸命避難する。 ・困っている人を助ける。 ・お年寄りや子どもの手を引く。 	

単元の構想

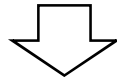
《見つめる》



和歌山県広川町役場

【子どもたちから疑問】

- ・この人は誰なんだろう？
- ・どこに向けて走っているんだろう？
- ・銅像があるけど何をした人なのかな？



浜口梧陵



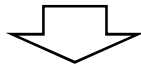
《調べる》

なぜ広川町に浜口梧陵の銅像があるのだろう？

稲むらの火という話があり、
広村住民を守っていた。

堤防を作ることで
村民の雇用を生
み、流出を阻止

高さ 5m で 600m
続く堤防を作った。



稲むらに火をつけ、住民に高台に逃げるよう誘導

《深める》

なぜ広川町に浜口梧陵の銅像があるのだろう？

◎浜口梧陵の思い

広村のことが大好きだ。

村の人が助かって
ほしい。

広村に今後も安全に
住み続けてほしい。

◎住民の思い

浜口梧陵のおかげで
広村は守られた。

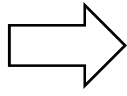
より多くの人に
知ってもらいたい。

しかし・・・今後和歌山にくると予想されている南海・東南海地震の津波予想：地震後 5 分 18m
⇒広村堤防は 5m。津波の抑制にはなるが、堤防だけに頼っているわけにはいかない。

《広げる》

今、地震が発生したら私たちにできることは何だろう？

浜口梧陵の行動から



- ・ 率先避難者になる。
- ・ 一生懸命避難する。
- ・ 困っている人を助ける。
- ・ お年寄りや子どもの手を引く。

